

Title	Banach spaceニ於ケル二次operatorニツイテ
Author(s)	清水, 辰次郎
Citation	全国紙上数学談話会. 2(1) p.21-p.24
Issue Date	1946-11-03
oaire:version	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/75141">https://doi.org/10.18910/75141</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

# 6 Banach space = 於ける二次 Operator = ツイテ

陸大 清水辰次郎

(10月26日 21)

Banach 空間 (Complete normed linear space) なる linear operator の性質ハ著シク研究セラレタルガ 更に高次 operator 又解析的 operator = 因ニテハ Banach 門下及びアメリカ 於テ幾ツカノ研究ガアルガ 今ニテ函数空間論的研究ハ未ダアリ 發展シテ来タイ。

次ニ二次高次多項式 Operator = 因スルニ三 性質ヲ尋ヨウ  $E, E' =$  複素数ノオペレータートスル Banach 空間トシ  $x, y, \dots$  ヲ以テソノ要素,  $\alpha, \beta, \dots$  ヲ以テ複素数ノ表ハス

$p(x)$  ハ空間  $E$  ヲ空間  $E' =$  空間  $\mathcal{E}$  operator トス。

定義  $p(\alpha x + \beta y) = \alpha p_1(x, y) + \alpha \beta p_2(x, y) + \beta p_1(x, y)$  。

満足スル operator  $p(x)$  ヲ二次高次多項式 operator トイフ。此所ニ  $p_1(x, y)$  等ハ  $E \times E$  ヲ  $E'$  ハ operator トシ  $p_1(x, y)$   $p(x)$  等ハ連続性ヲ假定シタイ。

先ノ定義ヨリ  $\alpha = 1, \beta = 0$  トシテ  $p_1(x, y) \equiv p(x)$   
 $\alpha = 0, \beta = 1$  トシテ  $p_1(x, y) \equiv p(y)$   
 $\alpha = 1, \beta = 1$  トシテ  $p_2(x, y) \equiv p_2(y, x)$

ナルヲ知ル。

定義ヨリ明カトナセテ  $p(x + \alpha y)$  ハ  $\alpha =$  同ニテ連続ナル  
 次ニ

$$\lim_{\tau \rightarrow 0} \frac{p(x + \tau y) - p(x)}{\tau} = p_2(x, y)$$

$$y = \alpha y_1 + \beta y_2 \quad \text{トシテ,} \quad \xi = \tau \alpha, \quad \eta = \tau \beta \quad \text{トシテ}$$

$$\begin{aligned}
& \lim_{\tau \rightarrow 0} \frac{p(x + \xi y_1 + \eta y_2) - p(x)}{\tau} \\
&= \lim_{\tau \rightarrow 0} \frac{p(x + \xi y_1 + \eta y_2) - p(x + \eta y_2) + p(x + \eta y_2) - p(x)}{\tau} \\
&= \alpha p_2(x, y_1) + \beta p_2(x, y_2)
\end{aligned}$$

以上、 $p(x + \alpha y)$  が  $\alpha \rightarrow 0$  へと連続になることが示される。 $p(x)$  の連続性を仮定した。

依って

$$p_2(x, \alpha y_1 + \beta y_2) = \alpha p_2(x, y_1) + \beta p_2(x, y_2)$$

即ち  $p_2(x, y)$  は  $x$  及び  $y$  に関して一次斉次 operator である。  
依って勿論

$$p_2(x, 0) = p_2(0, y) = 0$$

定理 1. 二次斉次多項式 operator が連続ならば有界である。

( $x=0$  として連続ならば有界)

仮りに有界ならば  $M_n \rightarrow \infty$

$$\|p(x_n)\| > M_n \|x_n\|^2 \text{ ならば}$$

$$Y_n = \frac{1}{\sqrt{M_n} \|x_n\|} x_n \text{ とおく } \|Y_n\| \rightarrow 0$$

$$\therefore p(Y_n) = \frac{1}{M_n \|x_n\|} p(x_n) > 1$$

然るに  $x=0$  として  $p(x)$  は連続な故

$$p(Y_n) \rightarrow p(0) = 0$$

定理 2. 二次斉次多項式 operator が有界ならば連続

先ず  $x_n \rightarrow 0$  なる系列  $x_n$  を考える

有界な故  $\|p(x_n)\| < M \|x_n\|^2$

$$\text{依って } \|p(x_n) - 0\| < M \|x_n\|^2 \rightarrow 0$$

即ち有界ならば  $x=0$  として連続となる

一方二次齊次多項式 operator は

$$p(x+y) = p(x) + p_2(x, y) + p(y)$$

ト書き表ハサレルカラ,  $y_n \rightarrow 0$  ナル系列  $y_n$ ニ対シ  $p(y) \wedge y=0$   
ニテ連続且  $p(0)=0$  ナル故, 先ツ  $p(y_n) \rightarrow 0$

$p_2(x, y)$  ハ  $x, y$ ニ関シ additive ナルヲ知ルベシカ

$$p_2(x, y) = p(x+y) - p(x) - p(y)$$

カラ有界, 即チ

$$\|p_2(x, y)\| < M \cdot \|x\| \cdot \|y\|$$

$$\left( \because p_2\left(\frac{x}{\|x\|}, \frac{y}{\|y\|}\right) = p\left(\frac{x}{\|x\|} + \frac{y}{\|y\|}\right) - p\left(\frac{x}{\|x\|}\right) - p\left(\frac{y}{\|y\|}\right) \right)$$

$p(x)$ ノ有界カラ右辺ハ  $M=7$  上ニ有界セラル.

$x$ ヲ一定トシテ考ヘレバ  $p_2(x, y)$  ハ  $y$ ニ関シ連続ナル故

$$\lim_{y_n \rightarrow 0} p_2(x, y_n) = p_2(x, 0) = 0$$

依ツテ

$$p(x+y_n) = p(x) + p_2(x, y_n) + p(y_n)$$

ヨリ

$$p(x+y_n) \rightarrow p(x)$$

即チ  $p(x)$  ハ連続ナル, 以上ニ証明ニテ明カナリ

定理 二次齊次多項式 operator ハ一実ニテ連続ナラバ  
スベテ, 実ニテ連続ナル.

$$\text{附記} \quad p(\alpha x + \beta y) = \alpha^n p_1(x, y) + \alpha^{n-1} \beta p_2(x, y) + \dots + \beta^n p_{nn}(x, y)$$

ヲ以ツテ  $n$  次齊次多項式 operator ヲ定義スレバ

$$p_1(x, y) \equiv p(x),$$

$$p_{nn}(x, y) \equiv p(y).$$

且,  $p_2(x, y), p_3(x, y), \dots, p_n(x, y)$  ハ  $x \wedge y$ ニ関シ一次, 二次,  $(n-1)$  次

$x = \text{関数}$   $(n-1)$  次,  $(n-2)$  次,  $\dots$  一次, operator 以外が示  
される.  $p(x)$  が連続ならば,  $p(x)$  は連続トハ限らる.

例  $p(x, y) = x$  の連続函数  $p(x, y) = x$  (Cauchy), 積分表示  
が得られる.

$$p_j(x, y) = \frac{1}{2\pi i} \int_C \frac{p(x + \tau y)}{\tau^j} d\tau$$

加減

$$(C, \tau = 0 \text{ を中心とする円})$$

$$p_j(x, y) = \frac{1}{2\pi i} \int_C \frac{p(x + \tau y)}{\tau^j} d\tau$$

かつ  $p(x)$  が有界ならば,

$$p_j(x, y) = 0$$

例として

$$\|p_j(x, y)\| \leq M_x \|y\|^j$$

以上, 積分表示より

$$p_j(x, 0) = 0 \quad j = 2, 3, \dots, n$$

例として

$$p(x + y_n) = p(x) + p_2(x, y_n) + \dots + p_{n-1}(x, y_n)$$

より明らか  $y_n \rightarrow 0$  ならば

$$p(x + y_n) \rightarrow p(x)$$

即ち  $n$  次有次多項式 operator は有界ならば連続である。

連続ならば有界にもなる。一変の場合は連続ならば

一変の場合は連続にもなる。一次 operator の場合は同様である。

示される

(以上)

